

自分を信じる

〓 本当は、四月十日(金)に
みんなに伝えたかったメッセージ

体育館入り口の満開の山桜に迎えられ、新入生たちが三中に入學しました。期待に胸をワクワクと膨らませている人、ちよつぴり不安がつている人、いろいろです。ちよつど昨年の今頃、みなさんも同じ思いだったはずで、そんなみなさんに、学年担当として期待していることを、いくつか、本日から数回に分けて述べていきたいと思ひます。

お正月に大学生の箱根駅伝のテレビ中継を見たりもいることと思ひます。今年、一年ぶりに青山学院大学が総合優勝しました。この箱根駅伝は、二一七・一キロを十区間に分けて出場校の十人

の選手が二日間かけて、バトンの代わり「襷」を次の選手に渡すというもので、「駅伝」自体が日本で生まれたスポーツです。しかし、たつた一人でも、おなかが痛いからと途中でやめたら、自分だけでなく今まで苦しい練習をしてきた仲間の選手に迷惑をかけることになるのです。

もう十数年前の二〇〇六年、この箱根駅伝に出場した選手の生の声を聞く機会がありました。当時専修大学の主将辰巳陽亮選手(四年生)は六区で、同大では八年ぶりに区間賞(その区間のトップの記録)を獲得しました。同大ではその八年前も四年生の小栗一秀選手が、同じ六区で当時の

区間新記録を達成しています。この小栗選手は四年間連続して六区を走りましたが、それまでの三年間の記録は、六位・十一位・九位というものだったそうです。当時の六区の距離は二〇・七(現在は二〇・八)キロ。箱根の山を下るのです。小栗選手は最後の駅伝で区間新記録を達成したので、彼は、この距離を走るために前年の夏二千キロ走る練習をしたそうです。

ここで断っておきますが、小栗選手は特別優秀な記録を持っていない選手ではなく、どちらかという平凡な記録しかない選手だったそうです。私は、もし、自分の力の限界を感じて練習をあきらめてしまったなら、彼がそのような立派な記録を出すことはできなかったと考えます。

我が国の仏教の一

派、浄土宗の開祖(一人)の流派の基を開いたさんは、『二丈(尺貫法の長さの単位で一丈は一尺の十倍、約三メートル)の堀を越えむと思はむ人は一丈五尺を越えむと励むべきなり。(もし、幅三メートルの堀を飛び越えて渡ろうと思う人は、幅四・五メートルの堀を飛び越えようと思つて練習に励んで当然である)』と書いています。

とを言わせてもらえば、もしみなさんがこれまで、やれるだけやったのに思つただけの効果を上げられなかったとしたら、やはりそれだけの努力をしていなかったということなのです。

と、例えば、百メートルを走るためには、百メートルの練習をしているだけでは自分の力を存分(思うところ、思うまま、思い通り、満足が行くほど)に発揮できないというのです。本番の時に余裕を持てるだけの練習が必要なのです。小栗選手のように努力をすれば、必ずそれだけの効果があるものです。ちよつと厳しいこ

時々、自分には才能がないんだ、とすぐにあきらめてしまふ人がいます。ところが、才能というのは自分の力を信ずることから生まれてくるものです。中学校生活を送る中で、これまでも、そしてこれからいろいろなきとが起きると思ひます。しかし、絶対にあきらめず、自分の力を信じて努力してほしいと思ひます。これが、みなさんへの最初のお願ひです。

五つのお願い

みなさんは、コンピュータを製造・販売しているIBMという会社を知っているでしょうか。黎明(れいめい)新しい時代の新しい文学や芸術の運動が始まること、またその時(とき)期から業界を牽引(けんいん)してきて(先頭に立って)物事を率いて、他の人や集団を率いていくこと、また、物事(ものごと)をある方向に引張(ひきちが)っていくこと)、十数年前(じゅうすうねん)前にパーソナルコンピュータ部門(ぶもん)を中国のレノボ(れんぼ)というメーカーに売却(ばいばい)し、もっぱら大型コンピュータの中心(しんしん)に企業活動(きぎょう)を行っているメーカーです。もともと、アメリカの企業(きぎょう)なのですが、その初代(はつだい)の社長(しゃちょう)さんが、会社の若い人(わかいひと)を集めて、次の五つ(ご)の事(こと)を実行(じっこう)してほしいと話(わ)したそうです。私も、みなさん(みんな)と同じことをお願い(ねが)いたいと思います。

一つ目は、『本(ほん)を読む(よ)む』という事です。私(わたし)たちが、生きている間(かん)に読(よ)める本の数(かず)はたかが知(し)られています。できるだけ良い本(ほん)を読むように心がけてほしいと思います。

二つ目は、『人の話(わ)をよく聞(き)く』という事です。私(わたし)たちに口(くち)が一つ、耳(みみ)が二つあるのは、話(わ)すことよりも聞(き)くことが大切(たいせつ)だからです。人の話(わ)を素直(すじ)な気持ち(きもち)で聞(き)くことが自分(自分)を成長(せいじやう)させることになるのです。そして、わからないことは自分(自分)から積極的に聞(き)くことです。わからないことは恥(はづ)ずかしいことではありません。わかってほしいこと(こと)はあります。わかってほしいこと(こと)がずつと恥(はづ)ずかしいこと(こと)ですし、

いつまでも自分を成長(せいじやう)させることはできないと思います。

三つ目は『人と話(わ)し合う』という事です。一人(ひとり)の力(ちから)というものには限り(かぎ)があります。昔(むかし)から『三人(さんにん)よれば文殊(もんじゆ)の仏(ぶつ)教(きやう)で知恵(ちえ)をつかさどる菩薩(ぼさつ)』(『二(に)人のこと(こと)で普通(ふつう)、獅子(しし)』(『ライオン』)に乗り(のり)、釈迦(しやくか)の左(ひだり)にいる)の知恵(ちえ)(人が三人(さんにん)集(あ)まって話(わ)し合(あ)えば、知恵(ちえ)の仏(ぶつ)である文殊(もんじゆ)菩薩(ぼさつ)にも匹敵(ひつてき)するアイディア(idea)が浮(う)かぶもの(もの)だ』)』とい(い)います。人(ひと)と話(わ)し合うこと(こと)で今(いま)まで気づ(き)づかなかったこと(こと)に気づ(き)づかなく(なく)がたくさん(さん)あります。そして、人(ひと)にはいろいろな考(こう)え方(かた)があるのだ(のだ)という事(こと)を知(し)ることが大切(たいせつ)だと思(おも)います。決して自分(自分)だけが正しい(ただしい)と考(こう)えないこと(こと)です。また、一人(ひとり)の人(ひと)と話(わ)し合(あ)うより(より)は、二人(ふたり)、三人(さんにん)の人(ひと)と話(わ)し合(あ)う方(かた)がいつ(いつ)そう(そう)すて

きなことを得(と)ることができ(き)るでし(し)ょう。

四つ目は、『よく物事(ものごと)を観察(くわんさつ)する』という事です。『百聞(ひやくぶん)は一見(いっけん)にしかず(ず)何(なに)度も人(ひと)から聞(き)くよりも実(じつ)際に自分(自分)の目(め)で見(み)る方(かた)がまさ(まさ)っている』とい(い)った人(ひと)がいます。わか(わか)ったつもり(つもり)にな(な)ってしま(しま)うと物事(ものごと)をじつ(じつ)くり見(み)ないこと(こと)にな(な)ります。例(れい)えば、蝶(ちょう)が飛(と)んでいるの(の)を(を)見(み)て『あ(あ)、蝶(ちょう)だ』で終(お)わ(わ)ってしま(しま)えば、それ(それ)がど(ど)んな種(しゆ)類(るい)の蝶(ちょう)でど(ど)のよう(よう)に飛(と)ぶのか(のか)、その時(とき)期(き)にその蝶(ちょう)が飛(と)ぶと(と)言(い)うこと(こと)は気(き)象(じやう)的(てき)な意(い)味(み)でど(ど)んな様(よう)子(し)である(ある)のか(か)など(など)という事(こと)を考(こう)えないこと(こと)になり(なり)やす(やす)いもの(もの)です。『じつ(じつ)くりと見(み)るぞ』と思(おも)ってみ(み)なければ見(み)えてこ(こ)ないこと(こと)もたくさん(さん)ある(ある)ので(ので)す。

これは、国立三(こくりつさん)中の教(きやう)育(いく)目(め)標(ひょう)にも取(と)り上(あ)げられて(られて)います(います)ね。いつも心(こころ)に『なぜ(なぜ)だ(だ)らう』という問(と)い(い)を持つ(も)つこと(こと)を心が(こころ)がけ(が)て下(くだ)さい。考(こう)えること(こと)で人(ひと)類(るい)は進(しん)歩(ぽ)してき(き)ました。じつ(じつ)くりと考(こう)えたら、行(こう)動(どう)する(する)こと(こと)です。行(こう)動(どう)して失(し)敗(ぱい)する(する)か(か)もし(もし)れ(れ)ま(ま)せん。し(し)かし、失(し)敗(ぱい)を怖(おそ)が(が)って何(なに)もし(もし)ない(ない)ので困(こ)ります。失(し)敗(ぱい)も良(よ)い経(けい)験(けん)な(な)ので(ので)す。

中(ちゆう)堅(けん)学(がく)年(ねん)と(と)して(して)の(の)一(いち)年(ねん)が(が)始(はじ)まり(り)、早(はや)二(に)ヶ(げ)月(げつ)。この間(かん)、登(とう)校(がう)でき(き)ず(ず)に、徒(いたず)ら(むやみやたら)に、わ(わ)け(わ)も(も)な(な)く、た(た)だひ(ひ)た(ひ)す(す)ら(ら)時(じ)間(かん)だけ(だけ)が過(か)ぎ(ぎ)て(て)い(い)く(く)と感(かん)じて(じて)い(い)る(る)人(ひと)も(も)い(い)る(る)か(か)もし(もし)れ(れ)ま(ま)せん。で(で)すが、この時(とき)間(かん)を(を)ど(ど)う(う)過(か)す(す)のか(か)、過(か)ご(ご)さ(さ)な(な)け(け)れば(れば)い(い)け(け)ない(ない)のか(か)、それ(それ)を(を)考(こう)える(える)の(の)が(が)、中(ちゆう)堅(けん)学(がく)年(ねん)と(と)して(して)の(の)皆(みな)さん(さん)に(に)与(よ)え(え)ら(ら)れ(れ)た(た)、課(か)題(だい)な(な)か(か)もし(もし)れ(れ)ま(ま)せん(せん)ね。